

令和6年度（2024年度）熊本スーパーハイスクール（KSH）構想県指定事業
〈事業概要説明資料〉

指定校種 (プロフェッショナル(実践研究型)ハイスクール)	学校名 熊本県立芦北高等学校
出席者 職名・氏名	教頭・岩下 猛、教諭・村田 裕樹

1 事業主題

地域を支える人材育成に関わるICTを活用した鳥獣被害対策及びジビエ料理の開発と普及

2 事業主題の設定理由

地域の喫緊の課題である鳥獣被害に対し、農業科・林業科で最先端のデジタル（ICT・IoT）技術等の知識・技術を習得し、課題の改善（環境保全、地域資源活用商品開発）に繋げることで地域を支える人材の育成に寄与する。

3 事業概要

- (1) ICT機器を活用した捕獲罠による鳥獣被害対策の技術習得及び鳥獣被害防止地域システムの考案
- (2) ジビエ料理のレシピ開発と普及

4 事業の検証方法

- (1) 関係機関（林業者・農業者）と連携し、地域全体で鳥獣被害防止に取り組む体制を構築する。
- (2) 本校の農場や演習林において被害を及ぼす鳥獣（シカ、イノシシ）を捕獲罠にて年間10頭以上捕獲する。
- (3) 企業と連携したジビエ料理の商品開発を実現し、販売実証を行う。

5 事業推進体制

- (1) 校内の推進体制：農業科、林業科
- (2) 外部連携の体制：芦北町猟友会、林業研究グループ、くまもと☆農家ハンター、ドリームアース、肉加工業者、芦北町、芦北地域振興局

6 事業内容

持続可能な地域社会を形成する要因の一つとして、鳥獣被害対策は不可欠となっている。芦北町の有害鳥獣捕獲数では、平成21年度から令和2年度の11年間で、イノシシ3.7倍、シカは、14.8倍と捕獲数が急増し、シカによる造林地の被害が深刻化している。これまで鳥獣被害において、農業ではイノシシ、林業ではシカが最も多い被害額となっていた。しかし、近年ではシカの群れが人里まで出没し、田畑や果樹園においての被害が報告されるようになってきている。シカによる被害は、主に果実を食害するイノシシと比べて葉や樹皮までも食害することから、特に柑橘栽培（甘夏・不知火等）の盛んな芦北地域においては、深刻な被害になることが予想される。

鳥獣被害増加の一つの要因として鳥獣被害対策の一端を担ってきた狩猟者の減少があげられている。そのため、本校農業科、林業科共通の課題である鳥獣被害対策について両学科で取り組み、ICTを活用した新たな狩猟技術の習得（狩猟免許取得含む）や鳥獣被害対策における地域システムの構築を図ることで、地域を支える鳥獣被害対策のスペシャリスト育成に繋げる。また、捕獲した鳥獣を地域資源として有効利用し地域循環型の農林業のシステムの構築を図る事業とする。今年度は、鹿肉の加工品開発に取り組み、「ジビエ甲子園」出店し、ジビエを普及させることを目標にしている。